

熊本大学学術リポジトリ

Kumamoto University Repository System

Title	折々の歌
Author(s)	永積, 安明
Citation	龍南, 206: 69-70
Issue date	1928-06-15
Type	Departmental Bulletin Paper
URL	http://hdl.handle.net/2298/9005
Right	

折々の歌

永積安明

天草灘

みはるかす天草灘の一ところ海に喰ひ入る黄なる斷崖すだき
みはるかす黄なる斷崖すだき輝きて海に喰ひ入る島一つ見ゆ

海邊光彩

海近き小竹林に風そよぎ黄に揺らめくは日の照るらんか
かた丘の小笹竹叢ゆれたれば班らに動く黄なる日の照り

夕暮細雨

夕つ陽の光の中を霧の雨ひととき降りて霽れにけるかも

或事件のためにK君は學校をやめることになつた。けれども君を知つてゐたものは集つて上熊本の驛おのつかに自らの告別わかをすることになつた。その時の歌。

武夫原唱和

相和して歌へる時しむらぎもの心たまゆらふりにけむかも
夕よどむ光の中に集ひたる友みな歌へり君を送ると
はふり落つる涙ぬぐはず唱ひたる武夫原頭を忘れ給ふな

出發

友は今改札口を行くならし聲はげまして呼ぶ聲聞ゆ
はらからのここだ送れば張りつめし汝なが男心をとこころもさけにけんかも